

水と緑の地球環境

植樹や森づくりの活動に、市民向けのツアーが登場している。森の手入れや間伐作業などで出た樹木を使って工作したり、地元の観光を組み入れて地域活性化を図るなど、遊びや交流の要素を加え、森林の再生という社会活動を身近なものにしようという試みだ。

【明珍美紀、写真も】

遊び、交流の要素加えて 市民向けツアー登場

「北欧の冬の過ごし方を体験しよう」。NPO法人「森のライフスタイル研究所」(長野県伊那市)では来月10日、長野県佐久市で、「森の木でクリスマス」の妖精「ニッセ」をつくらう」と銘打つツアーを実施する。

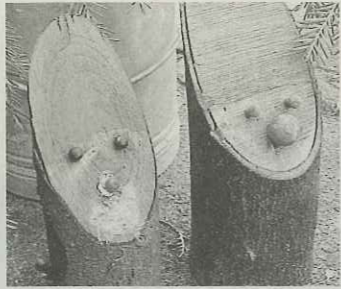
回は初めて、自分たちが伐採した木を使った遊びも盛り込み、クリスマスの本場である北欧の文化にも触れてもらおうと思った」と同研究所代表の竹垣英信さん(40)は話す。

当日は、ノコギリとナタを使いながら伐採などの作業をした後、ゲスト参加するデンマーク大使館の職員を隊長に、切り出した木で「ニッセ」をつくる。デンマーク流の冬の楽しみ方も学ぶ。

森と共に生きる

施す。

同研究所では、2年前から佐久市大沢地区にある約3000坪の森を借り、荒廃した雑木林の手入れを続けている。雪の多い1、2月を除いて毎月1回、森づくりのツアーを企画するが、「今



木製の「ニッセ」。ツアーでは森から切り出した木で製作する「森のライフスタイル研究所」提供

「市民のみなさんと木を植えよう」と公益財団法人イオン環境財団(理事長・岡田卓也イオン名誉会長)では国内外で植樹活動を展開し、イオングループの旅行会社が、植樹ボランティアのツアーを企画している。先月は、00年の噴火で被災した三宅島での植樹ツアーが行われ、約80人が参加。三宅島の平野祐康村長ら地元約100人や財団関係者らを含め、200人以上が集まった。噴火した雄山中腹の南側斜面が植樹場所。噴火前は原生林が広がり、野生のランが群生していた。タフノキやヒサカキ、オオシマザクラなどのポット苗が用意され、軍手をはめた参加者らが、スコップを手に約2000本を植えた。盛岡市から娘や孫2人と

楽しんで「再生」発信